

令和5年度 学力向上の取組について

1 読解力向上ワークシート

教育指導課

※読解力向上ワークシートとは、基礎的な読解力向上を目的に令和4年度から取り組み始めた各種ワークシートの総称。小学校1年～4年生は、「読む・書くワークシート」に、小学校5・6年生、中学校1・2年生は「よむ YOMU ワークシート」に取り組んでいる。

【成果】

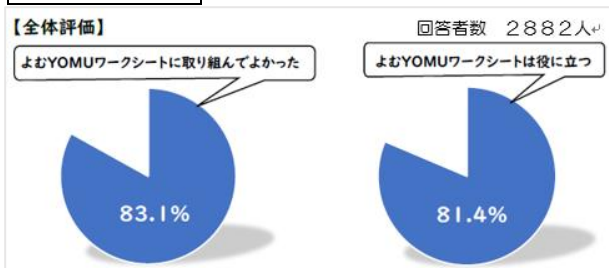
- 令和4年度「読解力向上ワークシート」に取り組んだ小学校10校

⇒ 10校全て全国学調(国語科)の結果が改善

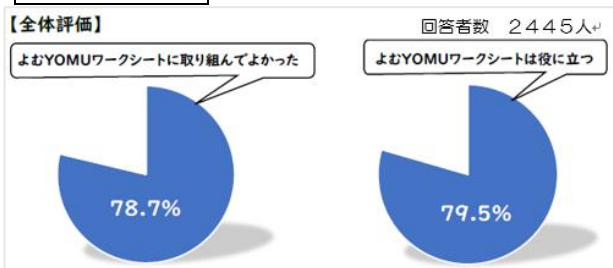
- 「よむ YOMU ワークシート」児童生徒アンケート結果より

※令和5年7月実施

鈴鹿市小学校 (5・6年生)



鈴鹿市中学校 (1・2年生)



⇒ 約80%の児童生徒が肯定的な回答

【自由記述より抜粋】

- 一文字一文字を意識して文章を読むことが得意になり好きになった。いろいろな文章を読んで自分もこんな文章を書いてみたいと思うようになった。
- 大事なところ(要点)をすぐに見つけることができるようになった。
- 今まで新聞は、大まかなところしか読んでいなかったけど、細かいところまで読むと新たな学びがあって、面白くなった。
- 文を読む力がついて、文を最後まで読めるようになった。

- 「読解力向上ワークシート」教師用アンケート結果より

※令和6年1月実施

読解力向上ワークシート	読む・書くワークシート			よむ YOMU ワークシート	
主な質問	小1 (N=61)	小2 (N=63)	小3・4 (N=120)	小5・6 (N=122)	中1・2 (N=89)
児童生徒が読解力(小1は国語)の基礎を身に付けることに繋がっている (肯定的回答の割合)	88.5%	93.6%	91.7%	92.7%	78.7%
昨年度比	(▲2.7)	(+26.1)	(+5.8)	(▲0.7)	前年度未実施

【自由記述の概要】

- 昔話は1年生の児童にとって良い教材である。
- 視写の効果は十分感じられる。
- 2年生の読解問題は解き方のポイントを説明しながら行っても時間的に余裕があり適切。
- 新聞の文体や、レイアウトに沿った読み方などを経験するよい機会になっている。

【課題】

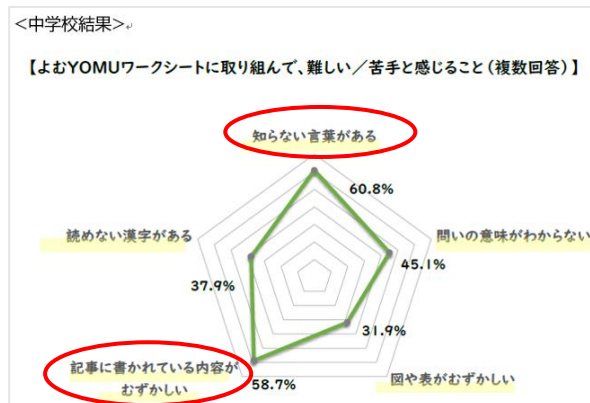
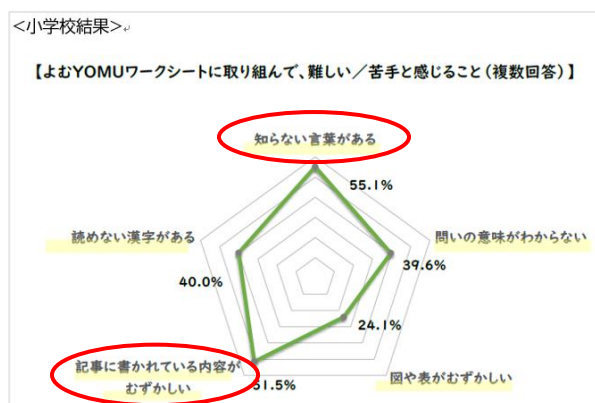
- ・指導主事による各校への視察・訪問より

組織的・継続的な
取組になっていない！

⇒ 学校間や学級間で取組方法が異なる

- ・定期的には実施されていない
- ・事後指導が行われていない
- ・答え合わせが子ども任せになっている
- ・指導資料が生かされていない 等

- ・「よむ YOMU ワークシート」児童生徒アンケート結果より



<課題改善へ向けた取組例>

- ・知らない言葉に出会ったら、すぐに辞書で調べる。
- ・新しく知った言葉を活用した短文作りに取り組む。
- ・関連記事について、ICT 等で検索する。

【次年度に向けて】

ワークシートの目的について、管理職から再度発信

(例)・職員会議や打合せ等で、「読む・書くワークシート」の指導資料を配付する。

取組方法を担当者と協議の上、職員に周知徹底

(例)・ワークシートを回収し、教師が採点后、解説を行い、理解を促す。

- ・各自又はグループ等で採点させた後、担任が回収する。つまづきがみられる課題を確認し、学年で(国語科の教師を中心に)共有し、返却時に改めて解説を行う。
- ・視写は、なぞり書きから始め、スモールステップで取り組む。

(外国人児童生徒にも有効)

2 授業力 UP5★

【成果】

- ・校内研修の具体的方策の1つとして位置付けている学校が増えた。
- ・5つの視点を意識した授業改善が少しずつ進んできた。
- ・参観の視点が明確になり、事後検討会が焦点化されてきた。

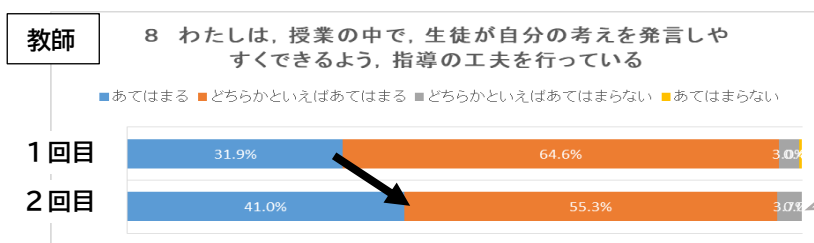
【課題】

- ・中学校では、教科間格差があるため、学校組織全体で授業改善を推進していくことが難しい。
- ・教師主導となっており、子どもたちが主役の授業となっていない。



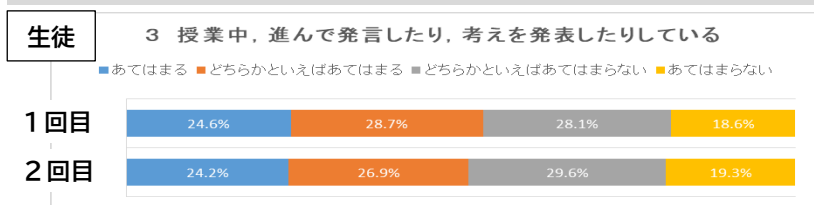
鳴門アンケート(教師用)の結果 ※中学校で実施

令和5年度鳴門教育大学連携事業に係るアンケート調査より



指導の工夫を行っている
（「あてはまる」と回答）
第1回 31.9%
第2回 41.0% （+9.1）

鳴門アンケート(生徒用)の結果 ※中学校で実施



（中学校）
教師の取組に対して生徒
の肯定的回答は低くなっている。

鳴門アンケート(教師用)の結果から、指導の工夫については、トップボックスが大きく改善されている。一方、生徒アンケートの結果を見ると、1回目よりも2回目の方が低くなっている等、教師の姿勢と生徒の受入れに乖離が生じている。

【次年度に向けて】

「授業力UP5★」のさらなる浸透と活用推進

- (例)・管理職が授業を定期的に参観し、「授業力UP5★」の視点から指導・助言を行う。
- ・「授業力UP5★」の意義や重要性を改めて管理職から発信する。

子どもたちが主役の授業づくり

- (例)・ICT 機器を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。
- ・授業中、教師の発言よりも児童生徒の発言回数が上回っているか、確認する。

3 学力向上分析シート

学力向上分析シートとは、全国学力・学習状況調査の結果や市全体の重点取組(C層・D層児童生徒の割合・読書時間・家庭学習の時間)の状況を入力するシート。

各校は、各項目の現状値や目標値を設定するとともに、達成状況の確認及び課題改善へ向けた具体的な方策を協議し記入する。

教育委員会は、各校の取組事例を整理するとともに、好事例等については、校長会や学力向上担当者会を通じて市内各校へ発信する。

【〇〇小学校】令和5年度 鈴鹿市 学力向上分析シート ～全国学力・学習状況調査を通して～

資料2

1 平均正答率

	全国	昨年度 全国との差	来年度の目標 (全国との差)
国語	65	-6.6	0
算数	59	-7.2	0

2 C層・D層の割合

	全国	昨年度 全国との差	来年度の目標 (全国との差)
国語	48.9	-4.2	45
算数	63.2	-5.1	50

3 家庭学習

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【1時間以上】

	全国	昨年度 全国との差	来年度の目標 (全国との差)
57.1	0.0	48.4	60

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【1時間以上】

	全国	昨年度 全国との差	来年度の目標 (全国との差)
40.8	52.5	-11.7	50

4 読書

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)【10分以上】

	全国	昨年度 全国との差	来年度の目標 (全国との差)
44.8	60.0	-15.2	60

(市独自調査)

自校の1人当たりの年間貸出冊数(R4年度)*1	42
全国(R2年度 学校図書館の現状に関する調査)	49
全国との差	-7
自校の1人当たりの年間貸出冊数(R2年度)*2	30
R2年度との差	12
本年度の目標(自校の冊数)	50

○成果 ▲課題

○国語科・算数科ともに、昨年度に比べて平均正答率が増加した。国語科においては、C層・D層の割合も大幅に改善が見られた。朝学で取り組んでいる読解ワークシート等の指導により、全体的に少しずつ読解力が身についてきている。

▲算数科の平均正答率は昨年度に比べて増加したものの、C層・D層の割合も増加してしまった。学力差がさらに開いてしまわないように、習熟度に応じた課題を課したり、多様な考え方を生かした授業展開を考えたりしながら、学力の底上げをはかっていきたい。

▲土日の家庭学習時間が全国と比べて短い。平日だけでなく、土日も家庭学習習慣を定着できるよう、週末課題の出し方についても検討していく必要がある。

課題改善のための具体的な取組

・朝学でのYOMUワークシート、読む・書くワークシートを引き続き取り組み、指導を充実させていく。

・家庭学習の質を高めるために、1人1台端末を活用した授業接続型の課題を課していく。

・学力調査の過去問を一定期間で重点的に取り組むのではなく、継続的に取り組むことで問題形式に慣れさせていく必要がある。そのため、毎週の週末課題に4～6年生は字vivaの問題、1～3年生は文章形式の問題を追加で取り組ませる。また、それらの週末課題を金曜日にまとめて取り組むのではなく、土日に時間をしっかりとって取り組むよう声掛けしていく。

課題改善に向けた取組状況を記載する。